

教育目標 「 豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒 」

重点目標 「 豊かな心 確かな学力 健やかな身体 」

あ さ ひ こ
中 朝 日 子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

令和5年2月13日(月) 第11号

著・編 校長 雑賀 裕 (TEL 66-2058)

<http://hatano-js.sado.ed.jp/>

E-mail hatano-js@sado.ed.jp

「同世代から学ぶ」(全校朝会:校長講話)

最近、ニュースやSNSで若者による配信動画が問題となっています。目に余る“許されざる行為”は、日本という国が大切にしてきた“心”…「思いやり」・「尊敬」・「躰」・「慎み」・「誇り」などの精神を踏みにじる行為と言わざるを得ません。大変残念な行為です。

先日、ある冊子が学校に届きました。

「第44回少年の主張全国大会」報告書です。

最初に掲載されていた作品を読み進めていく内に、心が締め付けられたり、また、温められたりしながら、読み終えた頃には、笑顔と涙が自然に溢れていました。

「この気持ちを畑野中の皆さんと共有したい」という思いを抑えられず、主催団体である「独立行政法人国立青少年教育振興機構」に連絡をし、畑野中の学校だよりへの掲載許可を頂きましたので紹介します。

「あなたの声、心に届け」 <内閣総理大臣賞受賞>

山梨県 北杜市立甲陵中学校 三年 前橋 真子

「真子ちゃん、きょうだいいるの?」「妹と弟がいるよ。」「妹かあ。羨ましい。」「羨ましいなんて……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。

私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元気だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元気なのは普通のことではないと思い、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。

この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら?」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。

恥ずかしい思いをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたいの。」妹に言われてハツとした。障がいにこだわっていたのは私自身だったのだ。

聴覚障がいのある妹が、明るく元気なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を絶やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌だったことや辛かったことを痛いほどに知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力してハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見ているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。

聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありませんか。」と口を大きく開け、ゆっくり話しかけてほしい。

「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこだまする。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉だ。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうとしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。

妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。

私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。

妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちは妹の心に確実に、届いている。

どうでしたか？ 私は、家族や友だちの顔を思い浮かべながら、もう1度読んでみようと思います。

学校の“これから”

～『部活動改革(地域移行)』(活動選択の拡充・教職員の負担軽減)～

部活動については、皆さんもご存じの通り「部活動の地域移行」に向けて、行政をはじめ各学校単位で準備や改革が進められています。

この取り組みの背景には、一つの学校だけでは「**選べる部活動が少ない**」、「**一緒に取り組む仲間が足りない**」、「**専門的な指導者がいない**」、「**学校の先生方の数が少なく対応できなくなっている**」などの問題が本格化し、部活動の現状維持が困難になってきたことが挙げられます。更に、少子化や過疎化に歯止めがかからない状況も相まって、社会全体の問題となっています。

一つの方策として「部活動の地域移行」が進められることとなりました。

概要は、参加者を学校から地域に広げることで、専門的な指導者の下、たくさんの仲間たちと、いろいろな活動に挑戦できる仕組みを作ろうというものです。

今後、学校部活動は地域部活動へ、そして、年齢や性別を問わない地域コミュニティー創生(「習い事」「趣味」「社会貢献活動」などとの並列)の場として発展していくことを願っています。学校は、生徒の学びの充実をめざし、文科省や教育委員会の指導の下、教職員の拡大・膨張している業務の精選を進めていきます。

下記に、国が掲げている「部活動改革推進期間(R5～R7)」を踏まえた、『畑野中部活動改革プラン』をお示しいたします。部活動活動時間の短縮の目的は、「部活動を希望する生徒・教職員・地域指導者等に時間と活動場所を開放する」と、「教職員の時間外勤務の解消」が主な目的となります。

今後、PTA や学校運営協議会・コミュニティースクール、青少年育成協議会等とも連携し、より良い社会の仕組みをめざしたいと考えております。ご理解ご協力をお願いいたします。

部活動	部活動改革推進期間			更に改革
	R5	R6	R7	R8以降
平日の活動終了時刻 (R4:夏 17:20・冬 17:00)	夏 17:20 冬 17:00	夏 17:10 冬 16:50	夏 17:00 冬 16:40	通年:16:40 (16:50 下校完了)
土・日の活動休止日 (土日とも休み)	月 1 回以上の 土日とも休みの週	月 2 回以上の 土日とも休みの週	月 3 回以上の 土日とも休みの週	完全実施 (学校部活動は行わない)
土・日の大会などの 対外活動(①+②)	①中体連主催大会 ②上位につながる 大会 ※その他の大会については、例年通りでなく参加を検討。(1つ減らす)	①中体連主催大会 ②上位につながる 大会 ※その他の大会については、例年通りでなく参加を検討。(1つ減らす)	①中体連主催大会 ②上位につながる 大会 ※その他の大会については、例年通りでなく参加を検討。(1つ減らす)	○実施せず。 ※平日の中体連・教育委員会主催大会のみ参加。 (振休対象大会を含む)

【生徒の様子・活動紹介】～フォトギャラリー～

<1年生:メディアに関する保健指導(1/16)>

「メディアとつき合い方を振り返り、健康課題を明らかにし、健康行動目標を考える」というねらいのもと、佐渡市の保健師 矢櫃 和紀 様をゲストティーチャーにお迎えし学習を行いました。

生徒たちは、メディアが視力や脳に大きな影響をもたらすことを知る良い機会となっていました。



<生徒会朝会(1/17)>

生徒会による定例の全校朝会が行われました。各委員会の活動について、委員長から報告や計画及び呼びかけが行われました。3年生は1年間学校の学校の自治活動に取り組んで来ましたがその任期ももうすぐ終わりを迎えます。しっかりと後輩に背中を見せながら引継をしていって欲しいものです。少し早いですが、1年間ありがとう。



<1・2年生:スキー授業(1/19)>

冬の雪山、めったにない快晴に恵まれ最高のスキー日和となりました。佐渡スキー連盟の方々から指導者となっていただき、それぞれの目標に応じた実技指導が行われました。

閉校式では、指導者の代表の方から、生徒の取り組みの良さと上達の早さを誉めていただきました。



<小学6年生:入学説明会(2/2)>

来春、当校に入学予定の児童と保護者の皆様をお迎えして説明会を行いました。中学校生活の説明や、授業見学、佐渡警察署 生活安全課 課長 梅澤 毅彦 様からの「ネットトラブル防止講話」などが行われました。

新入生の皆さんの入学を心待ちにしています。

